

有料放送のCAS利用

2019年2月28日
一般社団法人 衛星放送協会

名称	一般社団法人 衛星放送協会
英文名称	Japan Satellite Broadcasting Association
事務局所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂2-8-2 ATビル4階
衛星放送協会の成り立ち	日本で初めてとなるCS放送事業者6社の認定に合わせ、1992年に発足したCS放送協議会を前身としています。 1998年、CS放送のデジタル化による放送事業者とチャンネル数の飛躍的な増加に伴い社団法人 衛星放送協会（郵政省所管）としてスタートし、2012年からは一般社団法人 衛星放送協会となりました。
当協会の役割	1. 衛星放送事業の確立と普及につとめる。 2. 衛星放送の番組の質の向上及び放送倫理の高揚につとめる。 3. 衛星放送の番組の制作倫理の高揚につとめる。 4. 衛星放送に関する技術、経営、番組などの諸問題についての調査・研究。 5. 衛星放送事業に関する啓蒙、広報並びに、機関紙の発行及び資料の収集・公開。 6. 衛星放送事業に関する諸問題について、関係省庁、関係団体その他との連絡折衝。 7. 会員相互の連絡と共通する課題についての情報提供・研究。 8. 前各項に掲げるものの他本協会の目的を達成するために必要な事業。 このような役割にもとづき、協会として衛星放送の認知拡大を図り、1億2千万人の国民の皆様 に視聴いただくような環境作りをしてまいります。
組織	会長： 小野 直路（株式会社東北新社 社外取締役・監査等委員） 副会長： 村山 直樹（ジュピターエンタテインメント株式会社 取締役） 滝山 正夫（株式会社アニマックスブロードキャスト・ジャパン 代表取締役社長） 専務理事：岡本 光正（一般社団法人衛星放送協会 専務理事）
会員社	正会員（衛星基幹放送事業者、衛星一般放送事業者またはこれに準ずる者）81社、 賛助会員28社、計109社 *2019年1月31日現在

- ・ 衛星放送協会会員のCAS利用

衛星放送協会の会員は、有料放送事業を生業としている事業者がほとんどですが、衛星基幹放送による有料放送事業において、既存のHDまたはSDの放送ではB-CAS、新4K8K放送では新CAS(ACAS)を利用しています

B-CASの利用

- － HDまたはSD放送の有料放送事業者とプラットフォーム事業者は、(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ(B-CAS社)と契約し、もしくはプラットフォーム事業者経由で、CAS機能の対価をB-CAS社にお支払いしてB-CASを利用しています

新CAS(ACAS)の利用

- － 新4K放送の有料放送事業者とプラットフォーム事業者は、(一社)新CAS協議会の会員として、新CASの大きな開発コストと運営コストを応分負担した上で新CAS(ACAS)を利用しています

・ 有料放送と受信機

- － 衛星基幹放送では、従来、RMP放送事業者と有料放送事業者が同一のB-CASを利用する事により、累計2億5千万枚を超えるB-CASカードが製造され、地上/BS/110度CSの3波共用テレビが普及し、衛星放送協会の会員は、有料放送事業を拡大する事ができました
- － 新4K8K放送においても、RMP放送事業者と有料放送事業者が新CASを利用し、またACASチップにB-CAS機能も搭載されている事から、B-CASと新CASの双方に対応し、地上/BS/110度CSの既存放送と新4K8K放送を1台で受信可能なテレビが発売されています
- － 地上/BS/110度CSの既存放送と新4K8K放送の共用テレビは、1台でRMP放送と有料放送のどちらも楽しむ事ができ、また1台でSDから4Kまたは8Kの高精細な映像まで楽しむ事ができ、視聴者の利便性が高く、今後の普及が期待されます

- ・ 有料放送のCAS利用の将来
 - － 衛星放送協会の有料放送事業者は、昨年12月に新4K8K放送が開始された現状では、1台でRMP放送と有料放送に対応し、かつ既存放送と新4K8K放送に対応するACASチップを搭載した共用テレビの普及と、高精細なコンテンツの市場拡大を通じて、有料放送の普及を進める事が重要と考えています